

## 日高 義博 教授 履歴・業績



## 日高義博 教授 履歴・業績

### 【略 歴】

昭和23年1月 宮崎県に生まれる  
昭和41年3月 日向学院高等学校卒業  
昭和45年3月 専修大学法学部法律学科卒業  
昭和47年3月 明治学院大学大学院法学研究科修士課程修了  
昭和50年3月 明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学  
昭和63年11月 法学博士（専修大学）

### 【職 歴】

昭和50年4月 専修大学法学部専任講師（～昭和52年3月）  
昭和52年4月 専修大学法学部助教授（～昭和59年3月）  
昭和55年8月 相馬学術奨励基金による海外研究員（ドイツ連邦共和国 トリーア大学）  
（～昭和56年7月）  
昭和56年8月 ドイツ連邦共和国トリーア大学法学部客員教授（～昭和57年3月）  
昭和59年4月 専修大学法学部教授  
昭和63年4月 一橋大学法学部非常勤講師（～平成2年3月）  
平成3年8月 平成3年度長期在外研究員（ドイツ連邦共和国 トリーア大学）  
（～平成4年8月）  
平成6年4月 慶應義塾大学法学部非常勤講師（～平成9年3月）  
平成8年4月 明治大学法学部兼任講師（～平成14年3月）  
平成9年6月 ドイツ連邦共和国マルティン・ルター大学ハレ＝ヴィッテンベルグ法学部客員  
教授（～平成9年7月）  
平成13年9月 専修大学法学部長（～平成16年8月）  
平成16年4月 専修大学大学院法務研究科教授（現在に至る）  
平成16年9月 専修大学長（～平成25年8月）  
平成18年11月 学校法人専修大学理事長（現在に至る）  
平成26年2月 学校法人専修大学附属高等学校理事長（現在に至る）

### 【所属学会】

日本刑法学会  
日本犯罪学会

日本犯罪社会学会  
日本被害者学会  
日独法学会  
日韓サイバー法学会

## 【社会活動等】

昭和63年6月 第二東京弁護士会綱紀委員会参与員（～平成3年7月）  
平成8年4月 入間市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）（～平成18年3月）  
平成9年1月 司法試験第二次試験考査委員〔法務省〕（～平成17年11月）  
平成13年5月 財団法人石の博物館監事（～平成24年9月）  
平成14年1月 科学研究費委員会専門委員〔日本学術振興会〕（～平成15年9月）  
平成14年9月 法制審議会臨時委員（刑事法部会）〔法務省〕（～平成15年3月）  
平成16年9月 財団法人大学基準協会評議員（～平成24年3月）  
平成16年9月 公益財団法人川崎市国際交流協会理事（～平成26年6月）  
平成18年4月 社団法人日本私立大学連盟学長会議運営委員（～平成20年3月）  
平成18年11月 かわさき男女共同参画ネットワーク（会長）〔川崎市〕（～平成22年3月）  
平成20年10月 日本学術会議連携会員（法学委員会）（～平成26年9月）  
平成21年11月 一般社団法人日本私立大学連盟監事（～平成26年6月）  
平成22年4月 大学設置・学校法人審議会委員（学校法人分科会）〔文部科学省〕（現在に至る）  
※平成24年4月～分科会長  
平成23年3月 一般社団法人大学監査協会理事（～平成27年3月）  
平成26年4月 四川省区域与国別重点研究基地日本研究中心第一屆学術委員会顧問  
（現在に至る）  
平成26年6月 一般社団法人日本私立大学連盟理事（現在に至る）  
平成26年9月 大学ポートレート運営会議委員〔独立行政法人大学改革支援・学位授与機構〕  
（現在に至る）  
平成28年2月 東京商工会議所千代田支部サービス分科会評議員（現在に至る）  
平成28年3月 私立大学等の振興に関する検討会議委員〔文部科学省〕（～平成30年3月）

## 【研究業績】

### 著書

昭和54年5月 『不真正不作為犯の理論』〔第2版、昭和58年〕 慶応通信  
昭和58年6月 『現代刑法論争Ⅰ』 共著（植松正、川端博、曾根威彦、日高義博）  
〔第2版、平成9年〕 勁草書房  
昭和60年9月 『現代刑法論争Ⅱ』 共著（同上）〔第2版、平成9年〕 勁草書房  
9月 『リーガル・セミナー刑法Ⅰ総論』 共著（川端博、斉藤信宰、

	曾根威彦、日高義博)	有斐閣
昭和61年12月	『リーガル・セミナー刑法Ⅱ各論』 共著 (同上)	有斐閣
昭和62年9月	『刑法各論講義ノート』 [第4版、平成25年]	勁草書房
昭和63年11月	『刑法総論講義ノート』 [第3版、平成17年]	勁草書房
平成元年7月	『基本論点刑法』 共著 (川端博、日高義博)	法学書院
平成2年4月	『判例に学ぶ法律考現学』 共著 (井口茂、石黒一憲、神田秀樹、 羽田野宜彦、樋口範雄、日高義博)	ぎょうせい
平成3年4月	『法情報学要論』 共著 (石村善助、良永和隆、日高義博、井上大)	専修大学出版局
3年8月	『刑法における錯誤論の新展開』	成文堂
平成4年4月	『不作为犯の理论』 [訳：王樹平] 1992年4月	中国人民公安大学出版社
平成7年9月	『平成7年改正刑法 その意義と今後の課題』	自由国民社
11月	『トピック ドイツ刑法』 H.L.ギュンター著 日高義博 = 山中敬一監訳	成文堂
平成11年2月	『新刑法教室Ⅰ 総論』 植松正著 = 日高義博補訂 [増補、平成16年]	信山社
2月	『基本判例5 刑法総論』 共編 (曾根威彦、日高義博) [第2版、平成18年]	法学書院
4月	『基本判例6 刑法各論』 共編 (同上) [第2版、平成18年]	法学書院
平成13年3月	『新刑法教室Ⅱ 各論』 植松正著 = 日高義博補訂	信山社
平成17年9月	『違法性の基礎理論』	イウス出版
平成23年7月	『読書と人生 刑法学者による百学百話』	専修大学出版局
平成27年5月	『违法性的基礎理論』 [訳：張光雲] 2015年5月	法律出版社・中国
10月	『刑法総論』	成文堂

## 論文

昭和49年3月	「不真正不作為犯と作為犯との構成要件の等価値性」(昭和46年度修士論文) 法学ジャーナル(明治学院大学)創刊号
11月	「不真正不作為犯と作為犯との『等置問題』 - その主観的側面の検討 -」 法律のひろば 第2巻第11号
11月	「不真正不作為犯の故意の実体(上)」 警察研究 第45巻第11号
12月	「不真正不作為犯の故意の実体(下)」 警察研究 第45巻第12号
昭和50年11月	「不真正不作為犯学説史 - 問題性の推移と現代的課題とを探る -」 専修法学 論集 21号
昭和51年2月	「不真正不作為犯における等置問題と罪刑法定主義 - 構成要件の等価値性の理 論による解明 - (上)」 刑法雑誌 21巻1号
5月	「不真正不作為犯における等置問題と罪刑法定主義 - 構成要件の等価値性の理 論による解明 - (下)」 刑法雑誌 21巻2号
10月	「神山欣治先生と労働刑法 - 神山先生を偲んで -」 専修法学論集 23号
昭和51年12月	「法の適用と解釈」 著作者代表荒井貢次郎『要説法学』(酒井書店)所収
昭和52年3月	「不真正不作為犯の法規化について」 専修大学法学研究所紀要3『刑事法の 諸問題Ⅰ』所収

- 7月 「遺棄罪と保護義務」 藤木英雄編『判例と学説8・刑法Ⅱ（各論）』（日本評論社）所収
- 12月 「未成年者誘拐罪」、「猥褻誘拐罪・監禁罪と強制猥褻罪の関係」 西原春夫＝藤木英雄＝森下忠編『刑法学4＜各論の重要問題Ⅰ＞』（有斐閣）所収
- 昭和53年2月 「判例に見られる不真正不作為犯論の特質」 専修法学論集 27号
- 昭和54年3月 「金剛事件判決の争点とその論評」 今村力三郎訴訟記録第3巻『金剛事件（三）』（専修大学今村法律研究室）所収
- 5月 「不真正不作為犯における法的作為義務の錯誤」 Law School 8号
- 7月 「法人の刑事責任、公害犯罪に対する法的規制、主観的違法要素、不作為犯」 石川才顕編『刑法・司法試験シリーズ3』別冊法学セミナー（日本評論社）所収
- 昭和55年2月 「死者の名誉毀損」 専修法学論集 31号
- 6月 「不作為犯」 西原春夫＝宮澤浩一など編『判例刑法研究 第1巻』（有斐閣）所収
- 昭和56年3月 「偽証の罪、誣告の罪」 福田平＝大塚仁編『講義 刑法各論』（青林書院新社）所収
- 昭和57年9月 「遺棄罪の問題点」 中山研一＝西原春夫＝藤木英雄＝宮沢浩一編『現代刑法講座 第4巻』（成文堂）所収
- 10月 「不作為犯と共犯」 法学セミナー 333号
- 11月 「西ドイツの法学教育」 『専修大学教育学会 創立30周年記念論集』（専修大学教育学会）所収
- 昭和58年2月 「五・一五事件に対する裁判の経緯と争点」 今村力三郎訴訟記録第7巻『五・一五事件（四）』（専修大学今村法律研究室）所収
- 3月 「抽象的事実の錯誤と適条－合一的評価説の展開－」 専修大学法学研究所紀要8『刑事法の諸問題Ⅱ』（専修大学法学研究所）所収
- 6月 「行使ノ目的」、「行使」の意義、「寸づまり千円札と通貨偽造・変造罪」など9項目執筆 西原春夫編『判例ハンドブック（刑法各論）』（日本評論社）〔2版、平成7年〕
- 昭和59年1月 「誤想過剰防衛における故意・過失」 研修 427号
- 10月 「共同正犯における抽象的事実の錯誤」 専修法学論集 40号
- 昭和60年2月 「神兵隊事件の裁判の経緯と争点」 今村力三郎訴訟記録第9巻『神兵隊事件（二）』（専修大学今村法律研究室）所収
- 4月 「行為」 法学セミナー 364号
- 10月 「構成要件理論と裸の行為論」、「キセル乗車と詐欺罪」 受験新報 10月号
- 11月 「条件関係と相当因果関係」、「不法原因給付と横領罪の成否」 受験新報 11月号
- 12月 「保証者説の推移と問題点」、「横領罪と背任罪の区別」 受験新報 12月号
- 昭和61年1月 「可罰的違法性の理論」、「親族相盗例の法的性質」 受験新報 1月号
- 2月 「主観的違法要素と違法論」、「事後強盗の予備」 受験新報 2月号
- 2月 「ひき逃げの罪責をめぐる問題」 刑法雑誌 27巻1号
- 3月 「緊急避難の本質」、「死者の名誉毀損罪の保護法益」 受験新報 3月号
- 4月 「原因において自由な行為と責任主義」、「遺棄の概念」 受験新報 4月号

- 5月 「具体的事実の錯誤と故意の個数」、「凶器準備集合罪の罪質」 受験新報5月号
- 6月 「抽象的事実の錯誤と法定的符合説」、「未成年誘拐罪と被害者の承諾」 受験新報6月号
- 7月 「違法性の錯誤と故意責任」、「業務妨害罪における業務の概念」 受験新報7月号
- 8月 「未遂犯と不能犯との区別」 受験新報8月号
- 9月 「放火罪における焼燬の概念」 受験新報9月号
- 10月 「共犯関係からの離脱」 受験新報10月号
- 11月 「代理・代表名義の冒用と文書偽造罪」 受験新報11月号
- 12月 「過失の共同正犯」 受験新報12月号
- 昭和62年 1月 「虚無人名義の冒用と文書偽造罪」 受験新報1月号
- 2月 「片面的共犯の成否」 受験新報2月号
- 2月 「不作為の因果関係」、「作為義務の錯誤」 阿部純二編著『刑法I（総論）』（法学ガイド10、別冊法学セミナー81号、日本評論社）所収
- 3月 「偽造通貨行使罪と詐欺罪との関係」 受験新報3月号
- 4月 「間接教唆と間接幫助」 受験新報4月号
- 5月 「放火罪における『公共の危険』の認識」 受験新報5月号
- 6月 「正当防衛と防衛の意思」 受験新報6月号
- 7月 「偽証罪における『虚偽の陳述』」 受験新報7月号
- 8月 「障害未遂と中止未遂との区別」 受験新報8月号
- 9月 「公務執行妨害罪における職務執行の適法性の判断基準」 受験新報9月号
- 昭和63年 1月 「加担犯の錯誤についての判例理論の特質」 警察研究59巻1号
- 3月 「加担犯と錯誤」 専修大学法学研究所紀要13『刑事法学の諸問題Ⅲ』（専修大学法学研究所）所収
- 4月 「不作為犯－不真正不作為犯の成立要件と処罰範囲－」 芝原邦爾編『刑法の基本判例』（別冊法学教室基本判例シリーズ3、有斐閣）
- 4月 「違法性の錯誤（上）」 法学セミナー400号
- 5月 「違法性の錯誤（下）」 法学セミナー401号
- 平成元年 6月 「犯罪になるのはどのような行為か－犯罪論体系」 法学セミナー414号
- 6月 「行為の意義」、「法人の犯罪能力」など10項目執筆 香川達夫編『判例マニュアル刑法I総論』（三省堂）所収
- 11月 「不作為犯1」 法学教室110号
- 12月 「不作為犯2」 法学教室111号
- 平成2年 1月 「不作為犯3完」 法学教室112号
- 1月 「因果関係（ワークショップ）」 刑法雑誌30巻3号
- 7月 「正犯と共犯」 田宮裕＝板倉宏編『ホーンブック刑法総論』（北樹出版）所収〔改訂新版、平成15年〕
- 10月 「猥褻裁判と刑法の脱倫理化」 専修大学今村法律研究室報17号
- 12月 「違法性の錯誤」 芝原邦爾＝堀内捷三＝町野朔＝西田典之編『刑法理論の現代的展開－刑法Ⅱ』（日本評論社）所収

- 平成4年2月 「血盟団事件の裁判の経緯と争点」 今村力三郎訴訟記録 第16巻『血盟団事件(七)』(専修大学今村法律研究室)所収
- 5月 「強盗罪をめぐる問題(ワークショップ)」 刑法雑誌 32巻3号
- 5月 「不真正不作為犯」 阿部純二=川端博編『基本問題セミナー刑法』(一粒社)所収
- 6月 「未遂罪」 大谷實編『要説コンメンタル刑法総論〔総則〕』(三省堂)所収
- 6月 「往来ヲ妨害スル罪」、「阿片煙ニ関スル罪」、「飲料水ニ関スル罪」、「偽証ノ罪」大谷實編『要説コンメンタル刑法各論〔罪〕』(三省堂)所収
- 10月 「刑法における行為論の意味」 阿部純二=板倉宏=内田文昭=香川達夫=川端博=曾根威彦編『刑法基本講座第1巻』(法学書院)所収
- 平成5年3月 「Nötigung im japanischen Strafrecht」 専修大学法学研究所紀要 18『刑事法の諸問題Ⅳ』(専修大学法学研究所)所収
- 4月 「人の終期-脳死説」(演習刑法2) 法学教室 151号
- 5月 「刑法の任務」(演習刑法1) 法学教室 152号
- 6月 「偽計による監禁」(演習刑法2) 法学教室 153号
- 6月 「法曹育成のための授業システム」 法学教室 153号
- 7月 「構成要件論」(演習刑法1) 法学教室 154号
- 8月 「名誉毀損罪における真実性の証明」(演習刑法2) 法学教室 155号
- 8月 「死刑存廢論について」 警察公論 48巻8号
- 9月 「不真正不作為犯の成立要件」(演習刑法1) 法学教室 156号
- 10月 「業務妨害罪における業務の概念」(演習刑法2) 法学教室 157号
- 10月 「主観的違法要素と違法論」 福田平=大塚仁博士古稀祝賀『刑事法学の総合的検討(下)』(有斐閣)所収
- 11月 「主観的違法要素」(演習刑法1) 法学教室 158号
- 12月 「死者の占有」(演習刑法2) 法学教室 159号
- 12月 「法人の刑事責任」、「公害犯罪に対する法的規制」、「主観的違法要素」など7項目執筆 石川才顕=船山康範編『刑法I〔総論〕』(日本評論社、別冊法学セミナー)所収
- 平成6年1月 「可罰的違法性」(演習刑法1) 法学教室 160号
- 2月 「事後強盗の身分犯性」(演習刑法2) 法学教室 161号
- 3月 「違法性の錯誤」(演習刑法1) 法学教室 162号
- 3月 「事後強盗の身分犯性と共犯の問題」 専修法学論集 60号
- 4月 「不法原因給付と財産犯」(演習刑法2) 法学教室 163号
- 5月 「正当化事情の錯誤」(演習刑法1) 法学教室 164号
- 6月 「放火罪における危険の概念」(演習刑法2) 法学教室 165号
- 7月 「旧過失論と新過失論」(演習刑法1) 法学教室 166号
- 7月 「責任と予防(ワークショップ)」 刑法雑誌 33巻4号
- 8月 「虚偽公文書作成罪と間接正犯」(演習刑法2) 法学教室 167号
- 9月 「不能犯と未遂犯との区別」(演習刑法1) 法学教室 168号
- 10月 「テレホンカードの改変と有価証券変造罪」(演習刑法2) 法学教室 169号



- 11月 「犯罪共同説と行為共同説」(演習刑法1) 法学教室 170号
- 12月 「公務執行妨害罪における職務行為の適法性」(演習刑法2) 法学教室 171号
- 平成7年1月 「責任共犯論と因果共犯論」(演習刑法1) 法学教室 172号
- 2月 「収賄罪における職務関連性」(演習刑法2) 法学教室 173号
- 3月 「共犯の過剰」(演習刑法1) 法学教室 174号
- 3月 「安楽死ならびに尊厳死の許容性について－死に対する自己決定権と生命の保護－」 警察公論 50巻3号所収
- 3月 「公務執行妨害罪」 法学セミナー 483号
- 10月 「汚職の罪」 阿部純二編『基本法コンメンタール改正刑法』(日本評論社)所収 [第3版・2007年度版、平成19年]
- 11月 「東海大学安楽死事件判決について」 警察公論 50巻11号
- 平成8年1月 「血盟団事件訴訟記録補遺」 専修大学今村法律研究室報 25号
- 4月 「生命・身体に対する罪」 町野朔＝中森喜彦編『刑法2各論』(有斐閣)所収 [2版、平成15年]
- 5月 「替玉受験による入試答案の作成と文書偽造罪－法的思考プロセスへのアプローチ－」 法学教室 188号
- 6月 「第7条」、「第7条の2」 大塚仁＝川端博編『新・判例コンメンタール刑法1総則(1)』(三省堂)所収
- 6月 「公務執行妨害罪」 芝原邦爾＝堀内捷三＝西田典之編『刑法理論の現代的展開－各論』(日本評論社)所収
- 平成9年3月 「血盟団事件、五・一五事件、神兵隊事件の経緯と争点－今村力三郎訴訟記録を手がかりとして－」 明治大学法学部資料センター研究・講演資料 30号
- 12月 「飲料水に関する罪」 大塚仁＝川端博編『新・判例コンメンタール刑法4罪(1)』(三省堂)所収
- 平成10年2月 「偶然防衛と違法モデル」 専修大学法学研究所紀要 23『刑事法の諸問題V』(専修大学法学研究所)所収
- 3月 「原因において自由な行為の理論の理論的枠組みについて」 『西原春夫先生古稀祝賀論文集第二巻』(成文堂)所収
- 8月 「財産罪の保護法益」 法学教室 215号
- 10月 「法人の犯罪能力・犯罪の主体」、「両罰規定と法人の過失」など7項目執筆 香川達夫＝川端博編『新判例マニュアル 刑法I総論』(三省堂)所収
- 10月 「偽証の意味」、「虚偽の申告」など4項目執筆 香川達夫＝川端博編『新判例マニュアル 刑法II各論』(三省堂)所収
- 平成11年3月 「親族相盗例の問題点」 専修法学論集75号
- 平成12年3月 「帝人事件の裁判の経緯と争点」 今村力三郎訴訟記録 第29巻『帝人事件別巻(二)』(専修大学今村法律研究室)所収
- 5月 「不能犯論における危険判断」 『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集第二巻』(成文堂)所収
- 11月 「刑罰法規の明確性」、「放火罪における焼損の意義」 西田典之＝山口厚編『刑法の争点(第3版)』(有斐閣)所収

- 12月 「児童虐待と不作為犯－札幌高裁平成12年3月16日判決を契機として－」  
警察学論集53巻12号
- 平成13年5月 「死刑の適用基準について」 現代刑事法3巻5号
- 平成14年3月 「大逆事件の裁判の経緯と争点」 今村力三郎訴訟記録第31巻『大逆事件(二)』  
(専修大学今村法律研究室)所収
- 平成15年1月 「血盟団事件、五・一五事件、神兵隊事件の経緯と争点(1)－今村力三郎訴訟  
記録を手がかりとして－」 現代刑事法5巻1号
- 2月 「血盟団事件、五・一五事件、神兵隊事件の経緯と争点(2・完)－今村力三郎  
訴訟記録を手がかりとして－」 現代刑事法5巻2号
- 6月 「可罰的違法性と違法の統一性」 齊藤誠二先生古稀記念『刑事法学の現実と  
展開』(信山社)所収
- 平成18年6月 「管理・監督過失と不作為犯論」 『神山敏雄先生古稀祝賀論文集 第一巻』  
(成文堂)所収
- 平成19年10月 「刑罰法規の明確性」 西田典之＝山口厚＝佐伯仁志編『刑法の争点』[新・法  
律学の争点シリーズ2](ジュリスト増刊)
- 平成22年1月 「刑事判例研究の意義と方法」 専修ロージャーナル5号
- 平成23年12月 「親権の行使と未成年者誘拐罪」 『刑法・刑事政策と福祉－岩井直子先生古稀  
祝賀論文集－』(尚学社)所収
- 平成24年1月 「刑法講話－刑法学への導入－」 専修ロージャーナル7号
- 8月 「刑法の理論的対立軸の意義」 犯罪と非行173号
- 平成26年3月 「間接正犯と共謀共同正犯の区別」 『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論  
文集〔上巻〕』(成文堂)所収
- 10月 「共犯と身分」 『川端博先生古稀記念論文集〔上巻〕』(成文堂)所収
- 11月 「刑法解釋論と不真正不作為犯」(訳:張光雲) 四川師範大学学报社会科学版  
41巻6期
- 12月 「刑法解釋論と不真正不作為犯」 専修ロージャーナル10号
- 平成27年2月 「日本の法学教育について」 専修大学法学研究所紀要40『刑事法の諸問題Ⅸ』  
所収
- 12月 「日本の法曹教育の現状と問題点」 専修ロージャーナル11号
- 平成28年4月 「日本の法学教育」(訳:張光雲) 師大・西部法治論壇第1巻(創刊号)  
〔四川師範大学法学院〕
- 12月 「刑法の理論的対立軸とわが刑法学」 専修ロージャーナル12号
- 平成29年7月 「同時傷害の特例の法意および適用範囲－最高裁平成28年3月24日決定を契機  
として」 判例時報2332号

#### 判例評釈・判例研究等

- 昭和52年3月 「ピケッティングに際しての他組合員に対する逮捕行為と可罰的違法性」  
警察研究48巻3号
- 昭和53年2月 「間接幫助」 『刑法判例百選I総論』所収
- 3月 「公職選挙法166条にいう『選挙のためにする演説』の意義および同条違反行

- 為・法定外文書頒布行為の可罰的違法性」 警察研究 49巻3号〔その後、刑事判例研究会『刑事判例評釈集 第38・39巻』<有斐閣、昭和57年> に収録〕
- 4月 「野球賭博」 『刑法判例百選Ⅱ各論』所収
- 昭和54年4月 「自動車運転者の保証者的地位<BGHSt,Bd.25,S.218>」 判例タイムズ 378号
- 5月 「選挙の際のいわゆる『うぐいす嬢』に対する報酬支給と買収罪の成否」 警察研究 50巻5号〔その後、刑事判例研究会『刑事判例評釈集 第40巻』<昭和63年、有斐閣>に収録〕
- 昭和55年8月 「営業形態による賭博と常習賭博罪」 判例評論 258号〔判例時報 966号〕
- 昭和59年3月 「飲食店主の保証者的地位<BGHSt,Bd.26,S.35>」 専修法学論集 39号
- 4月 「宅建業法の名義貸し禁止規定の法意」 警察研究55巻4号
- 昭和60年6月 「強制による転落死と殺人の実行行為性」 『昭和59年度重要判例解説』所収
- 11月 「強盗の手段たる脅迫によって傷害を生ぜしめた場合と強盗致傷罪」 判例評論 321号〔判例時報 1163号〕
- 昭和61年1月 「迎撃形態の凶器準備集合罪における相手方からの襲撃の蓋然性の要否」 警察研究 57巻1号
- 1月 「迎撃形態の凶器準備集合罪における共同加害の目的」 警察研究 57巻1号
- 6月 「事後強盗に窃盗犯人でない者が関与した場合の罪責」 判例評論 328号〔判例時報 1186号〕
- 昭和62年5月 「道路交通法違反と過失犯の処罰」 『行政判例百選Ⅰ(第2版)』所収〔5版、平成18年〕
- 8月 「刑法117条ノ2および刑法211条の業務概念」 警察研究 58巻8号
- 10月 「刑法225条ノ2にいう『近親其他被拐取者ノ安否ヲ憂慮スル者』の意義」 法学教室 85号
- 昭和63年2月 「刑法225条ノ2にいう『近親其他被拐取者ノ安否ヲ憂慮スル者』の意義」 『判例セレクト' 87』所収
- 6月 「封印破棄罪の客体としての有効な差押の表示」 判例評論 352号〔判例時報 1296号〕
- 平成元年6月 「図利加害の意欲ないし積極的認容と特別背任罪における図利加害の目的」 判例タイムズ 694号
- 9月 「逮捕勾留中の犯人の身代り自首と犯人隠避罪」 法学教室 108号
- 平成2年7月 「正当防衛における防衛手段としての相当性の範囲」 判例評論 377号〔判例時報 1346号〕
- 11月 「受交付金員が起訴外の供与および選挙運動の正当費用に費消された場合と公職選挙法224条による追徴」 警察研究 61巻11号(後に、刑事判例研究会『刑事判例評釈集第48・49・50巻』<平成12年、有斐閣>に所収)
- 平成3年4月 「不作為の因果関係」 『刑法判例百選Ⅰ総論(3版)』所収〔同4版、平成9年〕
- 9月 「密漁に使用した漁船の船体等の没収が相当とされた事例」 警察研究 62巻9号
- 平成7年6月 「下級審判例における死刑判決事例三例」 判例評論 436号〔判例時報 1524号〕
- 6月 「刑法244条1項における親族関係」 『平成6年度重要判例解説』所収
- 平成9年5月 「死刑判決が破棄されて無期懲役が言い渡された事例－日建土木三億円保険金

- 殺人事件－」 法学教室 200号
- 平成11年3月 「電子計算機使用詐欺罪の成立を認めた事例－東海銀行オンライン詐欺事件－」  
判例評論 481号 (判例時報 1661号)
- 5月 「『急迫不正の侵害』の継続と防衛行為の相当性」 現代刑事法 1巻1号
- 6月 「偽計による競売入札妨害罪」 『平成10年度重要判例解説』所収
- 平成12年11月 「不作為による幫助犯の成立を否定した事例」 現代刑事法 2巻11号
- 平成13年6月 「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律16条にいう『人家稠密ノ場所』に当たるとされた事例」 判例評論 508号 [判例時報 1743号]
- 平成15年4月 「未必の故意」 『刑法判例百選 I 総論 [第5版]』所収
- 4月 「自動車の一時使用と不法領得の意思」 『刑法判例百選 II 各論 [第5版]』所収 [第7版、平成26年]
- 平成16年4月 「不申告通脱犯の成立時期と通脱税額の範囲」 現代刑事法 6巻4号
- 平成18年2月 「実行の着手と早すぎた結果の発生」 専修ロージャーナル 創刊号
- 平成19年2月 「不作為による殺人」 専修ロージャーナル 2号
- 平成20年1月 「親族相盗例と内縁関係」 専修ロージャーナル 3号
- 平成21年1月 「作為犯か不作為犯か」 専修ロージャーナル 4号
- 平成23年1月 「共謀関係の解消」 専修ロージャーナル 6号
- 平成25年1月 「横領と親族相盗例」 専修ロージャーナル 8号
- 12月 「共同正犯と過剰防衛」 専修ロージャーナル 9号

## 翻訳紹介

- 昭和57年7月 クスト・アメルンク 「ドイツ刑法学における法益保護理論の現状」 ジュリスト 770号
- 昭和58年9月 クスト・アメルンク 「ロクシンの刑事政策的刑法体系に対する批判」 専修法学論集 38号
- 昭和60年3月 ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ 「西ドイツ刑法改正の成果－総則の規定を中心として」 専修法学論集 41号
- 平成2年7月 クスト・アメルンク 「ロクシンの刑事政策的刑法体系に対する批判」 ベルント・シューネマン編・中山研一＝浅田和茂監訳『現代刑法体系の基本問題』(成文堂)所収
- 平成2年9月 ゲッセル 「西ドイツ刑事訴訟法における捜査手続の概要」(日高義博＝佐藤芳男共訳) ゲッセル著・宮沢浩一＝井田良監訳『正義・法治国家・刑法－刑法・刑事訴訟法の根本問題－』(成文堂)所収
- 平成4年9月 クスト・アメルンク 「法益侵害と社会侵害性」 専修法学論集 57号
- 平成5年3月 ハンス＝ルートヴィヒ・ギュンター 「ドイツ刑法における墮胎罪のゆくえ」 専修法学論集 58号
- 平成7年3月 ハンス＝ルートヴィヒ・シュライバー 「生命の保護の限界としての脳死」 専修法学論集 63号
- 平成9年3月 クスト・アメルンク 「旧東ドイツ政府犯罪の不法性の克服－壁狙撃兵事件を中心として－」 専修法学論集 69号

- 平成9年3月 ハンス・リーリエ「答弁の取引—ドイツ刑事訴訟においては『合意』か?—」  
専修法学論集 69号
- 平成10年9月 ゲジーネ・フォルヤンティ＝ヨスト「ドイツおよび日本における少年非行—比較研究の展望—」 専修法学論集 73号
- 平成13年3月 法務資料 460号『ドイツ刑事訴訟法典』（松尾浩也監訳：日高訳1条～150条）  
法務省大臣官房司法法制部
- 平成15年3月 ハンス＝ルートヴィヒ・ギュンター「犯罪構成要件の発生—刑事立法論の問題への導入—」（日高義博＝森住信人＝岡田好史共訳） 専修大学法学研究所紀要 28『刑事法の諸問題Ⅵ』所収
- 平成16年3月 カイ＝デトレフ・プスマン「ドイツにおける子供に対する家庭内暴力禁止の評価」（日高義博＝アレナ・クニップル＝森住信人共訳） 専修法学論集 90号
- 平成19年3月 ゲジーネ・フォルヤンティ＝ヨスト「社会科学的日本学—それでもなお!」（日高義博＝森住信人共訳） 専修法学論集 99号
- 平成23年2月 クスト・アメルンク「自然法主義的法思想から実証主義的法思想への転換としてのビルンバウムの刑法的『財』保護理論」（日高義博＝稲垣悠一＝張光雲共訳） 専修大学法学研究所紀要 36『刑事法の諸問題Ⅷ』所収

#### 座談会・鼎談等

- 昭和53年10月 「師弟談話室その一」（植松正＝日高義博） Law School 1号
- 11月 「師弟談話室その二」（植松正＝日高義博） Law School 2号
- 昭和59年6月 「刑法の学習と教育—東西比較—」（芝原邦爾＝瀬川晃＝山口厚＝日高義博＝新倉修） 法学教室 45号
- 平成7年10月 「師弟対談 私の刑法人生（植松正＋日高義博）」 植松正『刑法の話題』（信山社）所収
- 平成11年7月 「結果無価値論と行為無価値論」（川端博＝曾根威彦＝日高義博） 現代刑事法 1巻3号
- 10月 「錯誤と故意概念」（川端博＝日高義博＝佐久間修） 現代刑事法 1巻6号
- 平成12年1月 「正当防衛の正当化の根拠と成立範囲」（川端博＝日高義博＝井田良） 現代刑事法 2巻1号
- 4月 「財産犯の現代的課題」（川端博＝日高義博＝西田典之） 現代刑事法 2巻4号
- 7月 「過失犯論の課題と展望」（川端博＝日高義博＝大塚祐史） 現代刑事法 2巻7号
- 9月 「未遂犯論・不能犯論の現在」（川端博＝日高義博＝塩見淳） 現代刑事法 2巻9号
- 平成12年12月 「原因において自由な法理」（川端博＝日高義博＝中空壽雅） 現代刑事法 2巻12号
- 平成13年6月 「因果関係論の課題と展望」（川端博＝日高義博＝林陽一） 現代刑事法 3巻6号
- 8月 「共同正犯論の課題と展望」（川端博＝西田典之＝日高義博） 現代刑事法 3巻8号
- 11月 「罪刑法定主義の問題状況」（川端博＝日高義博＝山中敬一） 現代刑事法 3巻11号

- 平成14年 1月 「危険概念と各種犯罪類型」(川端博=日高義博=山口厚) 現代刑事法4巻1号  
 3月 「文書偽造罪論の現在と展望」(川端博=日高義博=今井猛嘉) 現代刑事法4巻3号  
 7月 「公務員犯罪の問題点」(川端博=日高義博=伊東研祐) 現代刑事法4巻7号

### 辞典・書評・論評等

- 昭和53年 1月 高窪利一=内田文昭等編(山火政則構成)『答練刑法各論』(虚偽公文書作成罪の間接正犯、架空名義の手形作成と偽造の成否、など12項目執筆) 学陽書房  
 昭和55年 4月 山根清道監修『教育臨床辞典』(因果関係、基本的人権など10項目執筆) 東京法令出版  
 昭和57年 5月 遠藤浩=福田平=成田頼明編『現代法中辞典』(威迫、恩赦など42項目執筆) ぎょうせい  
 昭和61年 3月 遠藤浩=福田平編『法令解釈事典(上巻、下巻)』(過失における予見可能性、共犯関係からの離脱、など3項目執筆) ぎょうせい  
 昭和63年 5月 [論評] 現代刑事法学の視点: 関哲夫「住居侵入罪の保護法益・ドイツの学説状況」 法律時報 60巻6号  
 6月 [書評] Bookshelf: 曾根威彦著『刑法総論』 法学教室 93号  
 平成元年 1月 [書評] Bookshelf: 前田雅英『刑法総論講義』 法学教室 100号  
 12月 「1989年学会回顧・刑法」 法律時報 61巻14号  
 平成2年 4月 [論評] 現代刑事法学の視点: 橋本正博「『行為支配論』の構造と展開」 法律時報 62巻4号  
 11月 [書評] 「日常的犯罪と社会構造」 デルク・ブラジウス著矢野久=矢野裕美訳『歴史のなかの犯罪-日常からのドイツ社会史』(同文館) 文化会議 257号  
 平成3年10月 [論評] 現代刑事法学の視点: 井田良「違法性における結果無価値と行為無価値-いわゆる誤想防衛をめぐって」 法律時報 63巻11号  
 平成4年 3月 町野朔編『刑法キーワード』(結果的加重犯-責任の移転?、期待可能性-安全弁としての法理論、禁錮と懲役-強制労働は恥辱か、の3項目執筆) 有斐閣  
 平成10年 4月 [書評] Bookshelf: 佐久間修『刑法講義[総論]』 法学教室 211号  
 平成11年 9月 [書評] 川端博『正当防衛権の再生』 ジュリスト 1163号  
 平成15年 3月 三井誠=町野朔=曾根威彦=中森喜彦=吉田一男=西田典之編『刑事法辞典』(具体的事実の錯誤、具体的符合説、など10項目執筆) 信山社  
 平成26年 7月 [論稿紹介] 唐稷堯[張光雲訳]「中国刑法の解釈上の特殊性と基本的視座」 専修法学論集 121号

### その他

- 昭和56年 2月 「ローテンブルク犯罪博物館-ドイツにおける中世刑事裁判・行刑の実際-」 Law School 29号  
 昭和58年 2月 「法曹の育成-西独の例から考える」 ニュース専修 158号  
 昭和59年 1月 「ファケルツーク」 専修大学今村法律研究室報 10号  
 6月 「パーティー作法」 有友 60号

- 昭和61年2月 「刑法総論—思考力・事案解決力の涵養」 法学セミナー 374号
- 昭和62年8月 「破獄魔を更正させるもの」 法学セミナー 392号
- 平成2年7月 「法律家をたずねて」 受験新報7月号
- 平成3年12月 「イエーナのフォイエルバッハ」 ジュリスト 992号
- 平成6年1月 「文武一如」 警察公論 49巻1号
- 平成7年7月 「居合道を楽しむ」 大学時報 243号
- 平成8年1月 「槐の花」 受験新報 540号
- 平成11年2月 「ハレ大学雑感」 専修大学今村法律研究室報 32号
- 6月 「恩師 植松正先生を送る」 現代刑事法 1巻2号
- 7月 「植松正先生の人と学問」 ジュリスト 1156号
- 7月 「明治学院での植松先生の思い出」 明治学院大学法律科学研究所年報 15号
- 平成15年3月 「司法制度改革と法曹教育—専修大学創立の原点から考える—」 専修大学今村法律研究室報 39号
- 平成16年9月 「『パンのための学問』の根底にあるものを見据えた学び」 法学セミナー 597号
- 平成17年3月 「菱木昭八朗先生を送る」 専修大学今村法律研究室報 4号
- 9月 「居合道と学問」 剣窓 289号
- 平成18年6月 『大学のあり方と社会知性の開発—日高義博学長講演録—』 専修大学
- 平成19年5月 「佐藤しのぶvs日高義博」 佐藤しのぶ『歌声は心をつなぐ』（東京書籍）所収
- 平成20年12月 「私立大学と学生募集」 IDE現代の高等教育 506号
- 平成21年3月 『学問と人生—日高義博学長講演録Ⅱ—』 専修大学
- 3月 「建学の精神と大学の未来」 専修大学史紀要 創刊号
- 7月 「山椒の記」 専修法学論集 106号
- 9月 「大学改革と建学の精神」 大学と学生 72号
- 9月 「大学改革の原点に据えるべきもの」 大学時報 328号
- 12月 「砂田卓士先生を偲んで」 専修大学今村法律研究室報 51号
- 平成23年1月 「グローバル化の波とアジア圏域における高等教育」 大学時報 336号
- 2月 『グローバル化の波と大学教育—日高義博学長講演録Ⅲ』 専修大学
- 3月 「田尻稲次郎と堀之内松十郎」 専修大学史紀要 3号
- 9月 「被災地支援の具体的方策」 財界 59巻18号
- 平成25年1月 「『魅力』ある私立大学を目指して」（座談会：坂井東洋男＝日高義博＝鎌田薫＝横山晋一郎＝仙波憲一） 大学時報 348号
- 3月 「学士課程教育と付属高校の役割」 専修大学史紀要 5号
- 平成26年3月 「高等教育と国のかたち」 専修大学史紀要 6号
- 平成28年3月 「心の原風景」 大学時報 367号
- 8月 「大学改革の指標となるもの」 私学経営 498号
- 平成29年3月 「日本人の人権意識」 専修大学史紀要 9号
- 3月 「学問の道そして居合の道」 専修大学史紀要 9号